

滋賀県内高校生の地震に関する意識調査

The survey of consciousness about earthquakes which the high school students in Shiga prefecture have

中島 健[1]

Takeshi NAKAJIMA[1]

[1] 滋賀・守山高

[1] Shiga Pref. Moriyama Hs.

高等学校における地学の開講数が近年減少の一途をたどる中、新学習指導要領が2年目を迎えても、地学履修率の改善が図られているとは言い難い。それどころか科目「地学1」の標準単位数の4から3への減少や、大学入試センター試験における選択科目の組合せ変更に伴い、この傾向はさらに加速していくといわざるを得ない。

一方、次の南海・東海地震がここ数十年以内に発生するであろう事はほぼ確実であるし、滋賀県では琵琶湖西岸断層帯の地震発生確率評価が内陸活断層としては非常に高いという現実もある。このような大きな被害地震が発生する時、社会の中核を担っているのは現在の若者達であろう。ところが地震に対する正しい知識や、防災に関する正しい姿勢を形成する機会が与えられないまま彼らが社会に出ていくのは、はなはだ心許ないことである。そこでこのような現状を打開するための基礎資料とするべく、滋賀県において高校生の意識調査を行った。

その結果、地学を専門とする教員による高校地学の開講が必要であることが、あらためて確認できた。

調査対象 滋賀県内公立高校 6校 646名、うち 有効回答数 640名。

(内訳 A:専門教員による地学履修者 309名、B:非専門教員による地学履修者 69名、
C:地学非履修者 262名)

結果(一部抜粋。数値の単位は%)

1(1)小中学校で地震のことについて授業で習ったことがありますか。

習ったことがある 75 たぶん習ったが、忘れた 23 習ったことはない 2

1(2)小中学校で習ったことがある人へ:それはどの教科ですか(最も印象の強いもの1つ)。

理科 78 社会 4 総合的な学習 3 道徳 2 その他 4

3(1)高校になってから、地震について授業で習ったことがありますか。

習ったことがある 60 たぶん習ったが、忘れた 6 習ったことはない 34

3(2)高校で習ったことがある人へ:それはどの教科ですか(最も印象の強いもの1つ)。

地学 59 地歴公民 2 その他 3

5 次の言葉を知っていますか。またどの程度説明できますか。

(2)初期微動

(5)南海・東南海地震

(6)琵琶湖西岸断層帯

よく知っていて説明もできる A:38 B:38 C:27 A: 4 B: 4 C: 6 A: 8 B: 1 C: 6

知っていて半分くらい説明できる A:39 B:30 C:34 A:21 B:12 C: 9 A:22 B:12 C: 9

知っているが、少しだけ説明できる A:17 B:25 C:24 A:27 B:20 C:21 A:31 B:13 C:17

知っているが、説明できない A: 5 B: 7 C:14 A:39 B:45 C:46 A:25 B:32 C:31

その言葉を知らない A: 0 B: 0 C: 0 A: 8 B:19 C:17 A:13 B:42 C:35

6 次の2つの言葉の違いを、どの程度説明できますか。

(1)震度とマグニチュード

(2)地震と地震動

(3)兵庫県南部地震と阪神淡路大震災

よく知っていて説明もできる A:38 B:28 C:21 A: 3 B: 1 C: 3 A: 6 B: 7 C: 7

知っていて半分くらい説明できる A:28 B:19 C:24 A:10 B: 9 C: 6 A:16 B: 6 C:11

知っているが、少しだけ説明できる A:24 B:30 C:26 A:23 B:17 C: 9 A:24 B:22 C:23

知っているが、説明できない A: 9 B:22 C:25 A:38 B:49 C:38 A:50 B:57 C:50

その言葉を知らない A: 1 B: 1 C: 4 A:26 B:23 C:44 A: 5 B: 9 C: 9

9 あなたは2050年までに滋賀県で大地震が起これると思いますか。

必ず起これる 15 たぶん起これる 50 たぶん起これない 15 起これるはずがない 5 わからない 18

13 自宅で震災対策をしていますか(最も重要と思うもの3つ以内)

非常持ち出し袋 20 懐中電灯・電池 39 水・非常食 38 ラジオ 17 家具が倒れないよう固定する 29

物が落ちないようにする 9 避難場所の確認 23 家族の非常連絡先の確認 15 何もしていない 24